



(様式2)

「探究的な学習活動における IT・データサイエンス活用促進事業」報告書

学校名	北海道旭川西高等学校
実施日時	令和7年2月17日(月) ①13:40~14:35 ②14:45~15:40
講師	(所属) 北海道大学 数理・データサイエンス教育研究センター (職・氏名) 教授・行木孝夫 (連絡先電話) 011-706-2171(数理・データサイエンス教育研究センター代表) (電子メール) office@mdsc.hokudai.ac.jp(同上)
実施概要	<p>1 ねらい データサイエンスを題材に、課題を発見・解決する手法を学習する。また、統計を用いて課題探究活動における適切な分析手法を学習する。</p> <p>2 日程 令和7年2月17日(月) ①13:40~14:35(普通科2クラス合同) ②14:45~15:40(普通科2クラス合同、理数科1クラス)</p> <p>3 講義、研修等の概要 (1) 導入(行木教授、20分程度) ・ノーベル化学賞を受賞した Alpha Fold を例に、「データサイエンス」とは何か、なぜ注目されているのか、大学における「データサイエンス」の取組についての講義 (2) 展開(加治佐貴大研究員、25分程度) ・実際の単回帰分析を進めながら外れ値を標準偏差によって評価する講義 ・データ分析に関わり、集めたデータの外れ値をどのように評価するのか、高校数学・情報科で扱う分散、標準偏差、単回帰分析などを踏まえて実例をもとに講義</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"></div> <p>4 成果(生徒・教員の変容及びねらいの達成状況等) ・(生徒) データサイエンスが文系・理系の枠を超えた分野であることが理解できた。文系を希望する生徒も、データサイエンスの有用性について興味をもった。また、多くの生徒が、探究活動に生かすことができるという実感をもった。 ・(教員) 情報科や数学科の授業で扱っていた断片的な知識を、まとまったストーリーとして捉えることで「データサイエンス」に対する理解が一段と高まった。</p>